

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			児童数の増加対応と支援目的に合致するように整備しました。
	2	職員の配置数は適切であるか	○			基準を上回る職員を配置しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		車椅子での移動が可能なように最低限の配慮はできています。1階のトイレの1つを子ども用のトイレに改修しました。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			日々の支援について毎日の打合せや定期的な会議のなかで検討を行うなどしています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			毎年、保護者にアンケート調査を実施し、それを踏まえて事業者評価を行いました。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			昨年度の事業者評価はHPに掲載済みです。今回の自己評価についても同様に行います。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	これまで第三者評価を受けたことはありません。今後、外部評価の導入について検討しています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			県や市及び関係団体が主催する研修には可能な限り職員を参加させると共に、近隣の事業所とも交流研修を行うなどして資質の向上に努めています。また、事業所内研修を行っています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			相談支援事業所と連携をして個別支援計画を作成しています。また、学校や医療、市町の福祉課等とケース会議へも参加しています。今後も子どもの成長や状況の変化に伴い変化するニーズを的確に把握できるよう工夫していきます。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		様々なケースがあるため一律ではありませんが、個々の特性や障がいに合わせてアセスメントができるようなアセスメントツールを利用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			年間計画、年間目標に基づき、前月会議で予定を具体化し、その後プログラムを支援担当者で立案し共有しています。さくらキャンプ全事業所でプログラムの立案を行っています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			スポーツやゲーム、制作活動や食育活動。社会体験などから様々な体験ができるように工夫しています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			休日や長期休暇は支援時間を長く確保できるため、体育施設や社会教育施設などを利用した活動等を行います。また、ハイキングなどの野外活動を積極的に行っています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			下校時間や学年や興味関心に応じて個別活動を行うと共に全体活動では子ども同士の交流が図れるように計画しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			毎朝、打合せを行い、前日までの情報の共有と、当日の支援内容の確認、役割分担を行っています。複数の事業所がありますので、毎日のオンラインミーティングも行っています。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			前項目回答の通りです
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			利用日ごとに支援内容と児童の状況を用紙に記録するとともに、月ごとにまとめて検証・改善につとめています。今年度からは、月の記録を保護者へ配付し、支援の内容の共有を進め、支援の検証・改善に努めています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			モニタリングの標準期間だけでなく、児童の状況の変化や保護者の意向なども踏まえて計画の見直しを行います。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			設定したプログラムの中ではコミュニケーションスキルの向上や、社会生活に役立つスキルの向上を集団の活動として行っています。生活場面では個々の課題に合わせて支援を行っています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			基本的に、児童発達支援管理責任者と支援担当者の複数で参画します。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○			各学校の年間・月間計画は一覧化するとともに、連絡会への参加や文書や電話連絡などで情報確認などをおこなっています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○		医療的なケアを必要とする児童の利用はありませんが、発作があるなど医療的な配慮が必要な児童については保護者と連絡方法や対応方法を確認しています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			連携会議等に参加し、情報の共有をしています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			相談支援事業と連携し、移行会議への情報提供等の対応をしています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			三島市をはじめ利用児童が関わるこれらの機関とは連携しています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	公園で地域の子どものと一緒に遊ぶことはありますが、放課後児童クラブなどと組織的な交流をする機会はありません
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	○			自立支援協議会や事業所連携会議等に参画しています
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			お子さんの日々の様子はLINEワークス等SNSを活用することで共有できるよう努めています。今年度からは、毎月の記録を配付し、共通理解をより深めていく予定です。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			参観や保護者参加のイベント等を開催する中で行っています。
保護者	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			運営規定をより具体的に記載した利用ガイドを作成し、保護者に配付するなどして、わかりやすい説明になるよう努力しています。

への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者からの相談は個別に面談時間を設定するなどして相談に応じています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○	前項目（29）回答の通りです
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		子どもや保護者からの苦情や要望がしやすくするためにLINEワークスを導入する等して迅速な対応に努めています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		次月の利用予定確認の際に行事予定や連絡事項を周知するとともに保護者向け通信を発刊しています。また、ホームページにも同様の情報を発信しています。
	35	個人情報に十分注意しているか	○		個人情報保護については、書類管理を徹底してその保持に努めています。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		外国籍の保護者には、文書をカタカナ表記にするなどしてわかりやすい情報伝達につとめています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	将来的には、そのようなことが出来たらと考えています。卒業生の参加があります。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○	マニュアルを策定し、職員研修を行っています。保護者への周知をより深めていきたいと思っています。
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		児童と共に月1回の防災訓練や防災知識の取得につとめています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止委員会を設置しています。職員全員で研修を行っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		交通安全や他害を防止するために手を引っ張ることや身体を押さえる可能性が生じる場合には個別支援計画に記載するなどしています。それと同時に身体拘束に陥らない支援の構築に努めています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	現在、該当する児童はありませんが、把握できた場合には保護者を通じて情報を得て適切に対応します。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハットについて記録し事故防止につとめています。